

# 持続性の甲状腺機能亢進症に対するペットオーナーとの確認事項

ペットオーナーへの質問	質問の狙い	必要な措置
あなたの猫はどのように1日を過ごしていますか？	戸外に出たり、〈猫用〉 <b>y/d</b> 以外の食物を摂取する可能性について評価します。戸外への出入りが自由な猫は他の食物を摂取しているかもしれません。	1カ月間、症例猫を屋内のみでの飼育にして〈猫用〉 <b>y/d</b> の給与を行い、その後に栄養管理の効果について評価します。
同居する他のペットがいますか？	他のペット用の食事(犬、猫、鳥、エキゾチック動物など)を盗み食いできるか否かについて評価します。	給与後の食物はすべて片づけるか、または他のペットの食事に近づけない場所に甲状腺機能亢進症の猫を隔離して〈猫用〉 <b>y/d</b> の給与を行い、1カ月後に再評価します。
あなたの猫の好きな食物またはおやつは何ですか？	これは猫におやつまたは他の食物を与えているか否かを判断する差しさわりのない方法です。多くのペットオーナーは人用の食品やおやつを「食事」の一部として見なしていないか、あるいはそれらに言及しないことがあります。	〈猫用〉 <b>y/d</b> が唯一の栄養源であると改めて認識させます。高ヨウ素食の一例として、乳製品、卵黄、シーフード、ドライフルーツ、缶詰野菜、塩漬肉、新鮮な鶏または七面鳥(肉汁または注入された添加物を含む)、大豆製品、海藻製品(海苔、ワカメなど)、カツオブシ、ニボシ、(赤色または褐色を示す多くの食品/錠剤に含まれる)赤色3号またはE127エリトロシンなどが含まれます。
あなたは猫にどのような食事を与えていますか？	どのような食物が与えられているかを評価し、さらに他のどのような食物を摂取する可能性があるかを判断するための質問をします。	〈猫用〉 <b>y/d</b> が唯一の栄養源であると改めて認識させます。ヨウ素が高い可能性がある一般的な食品および成分の一例については、上記を参照してください。
あなたは猫にどのようにして食事を与えていますか？	どのようにペットフードを保管、準備、給与しているかをクライアントに説明させます。〈猫用〉 <b>y/d</b> を容器に移して保管したり、以前に他のフードに使われていた給餌皿で、それをよく洗浄せずに給与する場合には、ヨウ素の混入が起こることがあります。	〈猫用〉 <b>y/d</b> を、それが入っていた袋または缶に保管することを勧めます。保管容器に移す場合には、新しいものにするか、よく洗浄する必要があります(食器洗い機)。同様に、給餌皿も新しいものにするか、よく洗浄し、また〈猫用〉 <b>y/d</b> 専用にするべきです。
あなたの猫に何か薬物またはサプリメントを与えていますか？	すべての薬物およびサプリメントについてペットオーナーに説明させます。	風味付けまたは人工着色した薬物またはサプリメント、魚または貝類の成分を添加したサプリメント、調剤薬局によって用いられる液体は、ヨウ素の摂取源になることがあります。
あなたの猫に誰が食事を与えていますか？	家族の中の他の者が不注意により給餌皿に他のフードを混入させてしまうか、あるいは他の食物を与えている可能性について評価します。	家族の中の1人を指定し、その者が責任を持って甲状腺機能亢進症の猫に食事を与えたり、給餌皿を洗ったりして清潔にするよう指導します。
家庭内に同居する子供がいますか？	床に落ちた食物、テーブルに残された食物、あるいは(親が見ていない時に)おやつとして与えられた食物を猫が食べることがあります。	〈猫用〉 <b>y/d</b> が唯一の栄養源であると改めて認識させます。ヨウ素が高い可能性がある一般的な食品および成分の一例については、上記を参照してください。
猫にどのような水を与えていますか？	大部分の水道水には微量のヨウ素が含まれます。しかし、他の水源(例えば井戸水、池の水)にはもっと多く含まれることがあります。	蒸留水に切り替え、1か月間〈猫用〉 <b>y/d</b> を給与します。その後に栄養管理の効果について再評価してください。

## 臨床研究による経験

現在までに、唯一の栄養源としてヒルズのプリスクリプション・ダイエット〈猫用〉**y/d** のみで管理された甲状腺機能亢進症の猫の90%は、正常な甲状腺機能となり、猫がヨウ素を含む他の食事を摂取しない限り、正常に維持されています。血清中総サイロキシン濃度は、栄養管理の開始から4~12週間以内に基準範囲に回復しました。



# 猫の甲状腺機能亢進症に対する重要な管理指針

いずれの症例においても、甲状腺機能亢進症の栄養管理を始める直前に必ずベースラインの診断的評価を行ってください。

- 総サイロキシン (T<sub>4</sub>) 濃度を含むベースラインデータを得てください。
- 甲状腺機能亢進症を確認してください。
- 併発症を確認してください (例えば腎臓疾患、心臓疾患、高血圧、糖尿病)。

## 新規に診断された甲状腺機能亢進症の猫

1. 常に栄養管理を始める直前に診断的評価を行ってください。
  - 甲状腺機能亢進症の確定診断をしてください。
  - 併発症を確認してください (例えば腎臓疾患、心臓疾患、高血圧、糖尿病)。
2. 血圧をモニターしてください。診断時に正常であっても、その後の甲状腺機能亢進症の管理によって上昇することもあります。

## 抗甲状腺薬からの移行

1. 常に栄養管理を始める直前に診断的評価を行ってください。
  - 新規の併発症の有無を確認してください。
  - 血清中総T<sub>4</sub>濃度を測定してください。

総T<sub>4</sub>が2.5μg/dL以下の場合: 栄養管理を始めると同時に抗甲状腺薬を中止してください。

総T<sub>4</sub>が2.5μg/dLを超える場合: 抗甲状腺薬の用量を50%減量し、プロトコルに従ってください。

※総T<sub>4</sub>が2.5μg/dLを超えている猫においても、医原性の甲状腺機能低下症を防ぐために y/d への切替え開始と同時に抗甲状腺薬の中止が必要な場合があります。

2. より頻繁に観察してください (1~2週間ごと)。

## 併発症 (例えば腎臓疾患、心臓疾患、高血圧、糖尿病) を有する甲状腺機能亢進症の猫の管理

1. 既存の甲状腺機能亢進症の管理を受けており、臨床状態が安定している猫: 同じ管理を継続してください。
2. 腎臓疾患を併発し、抗甲状腺薬の投与を受けられない猫: y/d が栄養管理の選択肢です。この療法食はリンおよびナトリウム含量が制限され、消化性が高く高品質のタンパク質から組成されています。
3. より頻繁に観察してください (1~2週間ごと)。

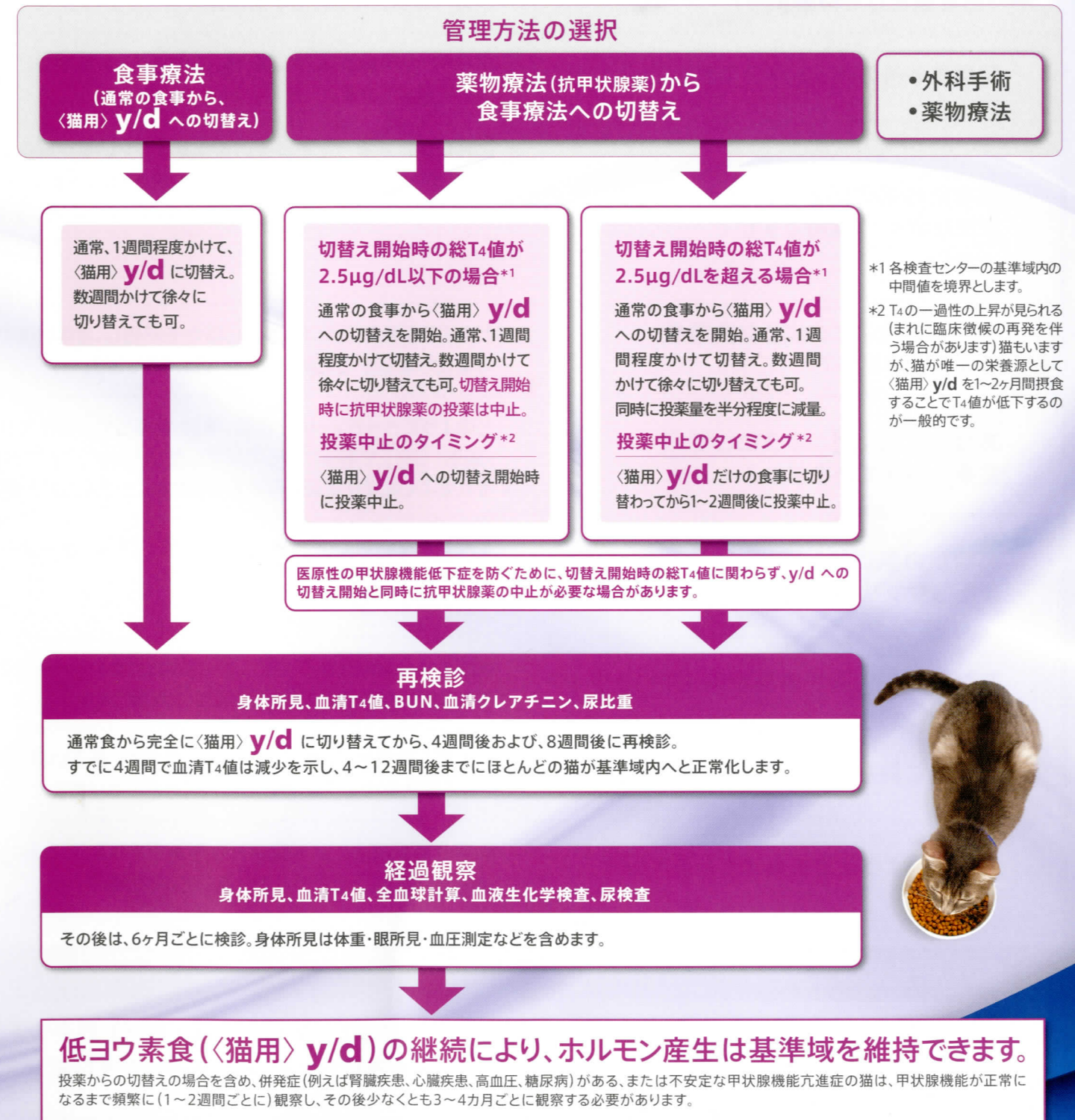
## 重症な甲状腺機能亢進症の猫の管理

1. 高血圧または心臓疾患を伴う猫の場合: 適切な治療で管理してください。
2. 抗甲状腺薬と y/d の併用について。
  - 必要でないか、または推奨されていません。
  - 重症の猫で、y/d による栄養管理に移行する際に抗甲状腺薬を併用する場合には、慎重に観察してください。
  - 総T<sub>4</sub>の急速な減少または1.0μg/dL未満への減少は、臨床徴候の悪化 (甲状腺機能低下症) をもたらすことがあります。即座に抗甲状腺薬を中止し、甲状腺機能が正常になるまで1~2週間ごとに総T<sub>4</sub>を観察してください。
  - 総T<sub>4</sub>濃度が基準域内の下限または基準域を下回る場合には、甲状腺機能低下症のリスクがあります。即座に抗甲状腺薬を中止してください。
3. 状態の安定後に再確認し、必要に応じて観察を継続してください。
  - 身体診察
  - 総T<sub>4</sub>
  - BUN、血清中クレアチニン、尿比重

## 猫の甲状腺機能亢進症の管理方法の選択

〈猫用〉y/d による管理を開始する前に左ページをご確認ください。

【ベースライン評価】 • 病歴、身体検査、全血球計算、血液生化学的検査、尿検査  
• 血清中サイロキシン (T<sub>4</sub>)



これらの指針は一般化したものです。個々の患者についてはそれぞれの臨床判断に従って意思決定をする必要があります。ご不明な点がございましたら、「獣医師専用の食事療法情報テレホン」までお問い合わせください。